

カリキュラム・マップ

文学部の教育目的	
世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや人に触れることを通じて、幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされた主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人を育てる。	

学修成果	
<p>【学部全体】 「学士(文学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。</p> <p>① キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること ② テキストを正確に読解できること ③ テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること ④ 複数のテキストや事象にわたる主題について首尾一貫してその細部を分析しさらにそれを総合する思考力を持つこと ⑤ 他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと</p>	

文学部全学科(全専修)基幹科目のカリキュラム				文学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること	② テキストを正確に読解できること	③ テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること	④ 複数のテキストや事象にわたる主題について首尾一貫してその細部を分析しさらにそれを総合する思考力を持つこと	他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと	各言語および言語圏の文学・文化について広く深い理解を持つこと
人文学とキャリア形成ab	必修 (基幹科目A)	2	人文学本来の学びの中で、個々の目標を問い、学問の意味や目的を明確にしながら、じぶんで人生設計し、キャリアをデザインすることが目標です。				○	◎	
インターンシップ	選択 (基幹科目B)	3~4	企業・自治体・NPOなどでの就業体験を通じて、文学部での学びを深化させる機会を得るとともに、自らのキャリアデザインを考える機会とする。				○	◎	
海外フィールドスタディ<1.海外EAP>	選択 (基幹科目B)	1~4	事前指導の後、夏休みの約4週間、言語表現・異文化対応・現地調査などの基本能力を現地で涵養する。帰国後、その成果を事後指導の際に発表する。	○		◎		◎	◎
海外フィールドスタディ<2.海外ASD>	選択 (基幹科目B)	2~4	夏休みの約4週間、言語表現能力、異文化対応能力、現地調査能力の基本を現地で涵養する。	○		◎		◎	◎
海外フィールドスタディ<3.海外SLV>	選択 (基幹科目B)	2~4	夏休みの約20日間、言語表現能力、異文化対応能力、現地調査能力の基本を現地で涵養する。短期留学を通じて、フランス語力を向上させ、フランスの文化と社会に関する理解を深める。		○	○		◎	◎
ケンブリッジ・サマープログラム	選択 (基幹科目B)	2~4	9月中に2週間英国ケンブリッジ大学エマニュエルカレッジにて行われる講義、チュートリアルによる独立学習、セミナー、グループワーク、共同論文執筆などの現地学習を中心に、春学期と秋学期に事前・事後学習を行う。	◎	○	○	○	◎	◎
音楽学演習1・2	選択 (基幹科目B)	2~4	音楽を対象とした研究を志す者(ないしはそれに準ずる者)がそれぞれの関心や問題意識から活発に意見を交換すること。	○		◎			
書道1・2	選択 (基幹科目B)	2~4	教職に必要な書道について実践的に学び、習得する。		○	○	○		
実作・実践研究1・2	選択 (基幹科目B)	3~4	劇映画の面白さとは何かということ、シナリオを読むこと、書くこととおして具体的に考察する。				◎		
情報処理(PCプレゼンテーション)3・4	選択 (基幹科目B)	1~4	プレゼンテーション用資料の作成等をつうじて、情報処理の基礎的な知識や技能を身につける。			○			
合同講義1・2	選択 (基幹科目C)	1~4	異なる専門領域の教員が共通のテーマを設定し構成する講義により人文学の広がりや深さを理解する。	○		○	○	○	○
実作・実践講義1・2	選択 (基幹科目C)	1~4	芸術における、「形(かたち)」に注目した作品読解の方法論を学ぶ。			◎	◎		
心理学1・2	選択 (基幹科目C)	1~4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。					◎	
情報処理1・2	選択 (基幹科目C)	1~4	●情報化社会の装置やソフトウェアのしくみと活用の基本を学ぶ。入門者向けの講義であり将来高度な情報化社会の技術等を学ぶためのステップとする。●様々な情報を提供するメディアをクリティカルに読み解くメディア・リテラシーの基本概念を理解するとともに、その基礎的な「読解力」を身につける。			○			
宗教思想1(キリスト教と「知」)	選択 (基幹科目C)	1~4	現在のわれわれの知の枠組みを決定した近代の西欧思想に触れ、その中で宗教の問題がどのような位置にあるかを考えること。	○	○	○		◎	
宗教思想2(欧米のキリスト教)	選択 (基幹科目C)	1~4	受講者が現代の宗教思想に自分で触れ、考えるようになること。	○	○	○		◎	
倫理思想(キリスト教倫理)	選択 (基幹科目C)	1~4	バイオエシックスの問題をキリスト教を中心に、さまざまな宗教的視点から分析していく。バイオエシックスに関する自分の考えを構築することをめざす。	○	○	○		◎	
英米文学概論	選択 (基幹科目C)	1~4	英米文学専修を含む文学部学生に向けて、英米文学の歴史と今後の可能性、英米の差異などについて、作品を鑑賞しながら具体的に論ずる。				○	○	◎
ドイツ語圏文化概論1	選択 (基幹科目C)	1~4	ドイツ語圏の文学、文化、言語の歴史と現在に関する基礎知識を学び、今後4年間の勉学全てに共通する重要不可欠な基礎知識を習得する。	○				◎	◎
ドイツ語圏文化概論2	選択 (基幹科目C)	1~4	同上	○				◎	◎
フランス文学・文化概論	選択 (基幹科目C)	1~4	フランスの文学と文化に関する基本的な知識を身につける。	○	○			△	◎

文学部全学科(全専修)基幹科目のカリキュラム				文学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)					
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること	② テキストを正確に読解できること	③ テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること	④ 複数のテキストや事象にわたる主題について首尾一貫してその細部を分析しさらにそれを総合する思考力を持つこと	他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと	各言語および言語圏の文学・文化について広く深い理解を持つこと
日本語学概論1	選択 (基幹科目C)	1~4	通史的な観点から日本語の特質や意義について基本的な認識を深める。		○	○	○		
日本語学概論2	選択 (基幹科目C)	1~4	通史的な観点から日本語の特質や意義について基本的な認識を深める。		○	○	○		
漢文学概論	選択 (基幹科目C)	1~4	日本文学の領域としての漢文学についてその特質や意義について基本的な理解を深める。		○	○	○		
日本文学概論	選択 (基幹科目C)	1~4	日本文学・文化全般に関して、その特色や意義について基本的な理解を深める。		○	○	○		
文芸・思想概論	選択 (基幹科目C)	1~4	文芸とはなにか、思想とはなにか、その両方を冠する問題の圏域について考える。	△			◎	◎	○
世界史概論1 (海域・海洋世界)	選択 (基幹科目C)	1~4	海域・海洋世界の諸テーマに関して通史的にその概要を学ぶ。	○	○			○	
世界史概論2 (大陸世界)	選択 (基幹科目C)	1~4	大陸世界の諸テーマに関して、通史的にその概要を学ぶ。	○	○			○	
日本史概論1	選択 (基幹科目C)	1~4	前近代史の諸テーマについて、通史的にその概要を学ぶ。	○	○				
日本史概論2	選択 (基幹科目C)	1~4	近現代史の諸テーマについて、通史的にその概要を学ぶ。	○	○				
超域文化学概論	選択 (基幹科目C)	1~4	超域文化学の概要について学ぶ。	○	○			○	
教育制度・政策論	選択 (基幹科目C)	1~4	学生は教育行財政制度とその基本原理を説明できるようになるとともに、近年の改革動向とその背景について視野に入れながら理解を深めることができる。					○	
家庭教育論	選択 (基幹科目C)	1~4	学生は現代の家庭教育をとりまく社会的文化的状況を知ることを通じて、現代の家庭教育が抱える課題について考え、理解することができる。					○	
教育と福祉	選択 (基幹科目C)	1~4	学生は現代社会における教育と福祉はどうあるべきか、その哲学的理念と基本的な政策について考察することができるようになる。					○	
教育と宗教	選択 (基幹科目C)	1~4	日本の教育における「宗教」の扱われ方を把握し、今後の宗教教育に関する課題を考察する。	○	○			○	
ヘブライ語1・2	選択 (基幹科目D)	1~4	基礎聖書ヘブライ語文法を習得する。	○	◎				◎
ギリシア語1・2	選択 (基幹科目D)	1~4	古典ギリシア語基礎文法を習得し、簡単な原典テキストや引用文が理解できるようになること。	○	◎				◎
ラテン語1・2	選択 (基幹科目D)	1~4	古典ラテン語の修得によって、古典文献へ近づくのみならず、近代語の語源や背景を知って、言語理解を深める。	○	◎				◎
ドイツ語文献講読1・2	選択 (基幹科目D)	2~4	ドイツ語で書かれたテキストを読解できるようなドイツ語力を身につける。		◎				◎
フランス語文献講読1・2	選択 (基幹科目D)	2~4	フランス語で書かれたテキストを読解できるようなフランス語力を身につける。		◎				◎
英語文献講読1~16	選択 (基幹科目D)	2~4	英語で書かれたテキストを読解できるような英語力を身につける。		◎				◎
Japan in Asian Context	選択 (基幹科目D)	3・4	日本をアジアの地域研究の文脈のなかで捉え直し、両者の相互の影響によって培われた歴史、思想、文化の諸相について考察する。		○		○	○	○
Traditional Arts in Japan	選択 (基幹科目D)	3・4	日本における伝統芸能・美術・文化をグローバルな視点で俯瞰し直し、そのあり方、意味合いをさまざまな角度から考察する。				○	○	◎
Postmodern Turn in Japanese Arts	選択 (基幹科目D)	3・4	日本の美術・文化の特質とその展開を、現代の世界の諸事象との関わりから多角的に学び、理解を深める。				○	○	◎
Development of Gender Studies	選択 (基幹科目D)	3・4	ジェンダー・スタディーズの思想とその展開、問題をグローバルな視点で捉え、社会における新たな認識の可能性を探る。		○			○	○
Intellectual History of Japan	選択 (基幹科目D)	3・4	日本において、あるいは日本に関して展開された知の営みを歴史的に学ぶ。また、生きる意味、自然や他者との関係、内面的反省など、知の諸問題について、多角的な理解を深める。				○	○	○
Christianity in Japan	選択 (基幹科目D)	3・4	日本におけるキリスト教の歩みを理解し、現在までのあり方をさまざまな角度から考察する。	◎			○	○	○
Japanese Literature in the World	選択 (基幹科目D)	3・4	日本文学をその海外での受容をふくむグローバルな視点から捉え直し、理解を深めることによって、多様な学的視点から考察する方法を学ぶ。				○	○	◎
Rethinking European Literatures	選択 (基幹科目D)	3・4	ヨーロッパ地域に展開する各種の文学に見いだされる人間理解、世界観について理解を深め、多彩な学的視点から考察する方法を学ぶ。				○	○	◎